

いびび

No.101 令和3年5月21日(金)

揖斐郡教育研修センター

揖斐郡池田町田中555

〒503-2403 TEL0585-44-1261

FAX0585-44-1263

未来に向けた教育

揖斐郡教育会 会長 桑原 浩美

昨年度、学校が休業になる事態を経験し、現実には「学校がある喜び」「学べる喜び」「仲間と過ごす喜び」を教えてくださいました。「当たり前の幸せ」に感謝し、精一杯生きることの重要性を体験しました。

コロナを経験した子どもたちは、竹のようにしなやかに生きる術を身に付けました。竹は重い雪が乗っかってもびくともしません。折れないで柔らかく曲がります。そして、雪がなくなったらまたバネのように元にもどろうとします。このような「やわらかさ」や「バネのような力」がしなやかさです。また、竹は、どんなに風が強く大きく揺れても折れることなくたわみ、風をまといながら倒れず、自分らしく根っこを伸ばして天高く伸びます。

思うようにならないとき、突然の事態が起きた時、それを受容しながら、前を向いて、今できることを考えて活動していく、そんなしなやかさはこれからの未来を生きる力の一つだと思います。

先日、歌手で教育学博士のアグネス・チャンさんの子育てに関する記事を読んで、大変共感したので紹介させていただきます。彼女は3人の息子をアメリカのスタンフォード大学に合格させた母親です。

その教育法とは

- ① 子どもにはまず、自己肯定力を高めて、自分を受け止めることを教えました。人と比べる必要はなく、自分は価値ある人間と信じて、自分を好きになれる人間を目指すように教育しました。
- ② 子どもの好奇心を育て、何事にも興味を持ち、自学、好学、活学ができるように育てました。
- ③ 教育の中で子どもたちの独特な能力、特に好きなことを伸ばすのが肝心です。スタンフォード大学のような未来型の大学は学生を選ぶ時に「オールラウンデッド」つまり、なんでもできる人間を選ぶのではなく、何か無我夢中になっている、得意分野を持っている学生を好んで採ります。息子たちの違いを認めて、それぞれの得意分野を伸ばして育てました。

教育は子どもたちに夢を見させる作業です。窓を開けて「ほら、世界は広い可能性がいっぱいあるよ」と教えます。子どもたちが大胆に夢を見ることを励まします。子どもたちが夢を見つけたら、夢に向かうために読み書き、専門知識などを教えます。そして、子どもたちに歩き出す勇気を与え、途中で転んでも立ち上がる強さを教え、夢が達成できた時には謙虚な心、分かち合う広い気持ちも教えます。教師こそ、子どもたちを未来に繋ぐ案内人です。

コロナ禍であっても、子どもたちの体と心の両面を守り、希望や夢をもち、しなやかに生きる子どもを育成する教育こそ今、子どもたちに求められる力です。

令和3年度の **揖斐郡教育会の組織** が決まりました。

【役員】

会長	桑原 浩美	(郡教育長会会長、大野町教育長)
副会長	野原 靖	(揖斐川町教育長)
副会長	仲井 智一	(池田町教育長)

【理事】

郡教育委員会連絡協議会代表	常富 みどり	(大野町教育長職務代理者、教育委員)
揖斐県事務所代表	安藤 英之	(揖斐県事務所副所長兼振興防災課長)
郡PTA連合会会長	西村 尚子	(池田中学校PTA副会長)
郡公民館長会代表	相馬美智男	(大野町公民館長会会長)
郡学校教育職員代表	長屋 和宏	(揖斐川町学校教育課長)
郡社会教育職員代表	横幕 大祐	(池田町次長兼社会教育課長)
郡小中学校校長会会長	折戸 克明	(揖斐川町立揖斐川中学校長)
郡小中学校校長会研修統轄	長田 正樹	(揖斐川町立北方小学校長)
郡教育研修センター所長	内藤 睦文	(大野町学校教育課長)

【事務局】

揖斐郡教育研修センター主幹	中村 孝広	(郡教育会嘱託職員)
〃	福田 昌彦	(郡教育会嘱託職員)
〃	竹中 尚士	(郡教育会嘱託職員)

令和3年度の **研修センター運営委員** は次の皆様です

郡教育研修センター所長	内藤 睦文	(大野町学校教育課長)
郡小中学校校長会 会長	折戸 克明	(揖斐川町立揖斐川中学校長)
〃 研修統轄	長田 正樹	(揖斐川町立北方小学校長)
〃 研修部長	中山健一郎	(揖斐川町立清水小学校長)
〃 研修部長	川瀬久美子	(大野町立北小学校長)
〃 研修部長	内田 道伸	(池田町立八幡小学校長)
郡小中学校教頭会 会長	香田 明彦	(揖斐川町立大和小学校教頭)
郡小中学校教務主任会 会長	岡本千加子	(大野町立東小学校教諭)
嘱託主任(科学作品展)	林 有子	(揖斐川町立北方小学校教諭)
〃 (社会科作品展)	坪井 貴弘	(池田町立温知小学校教諭)
〃 (図工・美術作品展)	宗宮 詔子	(大野町立北小学校教諭)
揖斐郡教育研修センター主幹	中村 孝広	
〃	福田 昌彦	
〃	竹中 尚士	

揖斐郡研修センター職員 を紹介します

揖斐郡教育研修センター所長	内藤 睦文	福田 昌彦	竹中 尚士
主幹	中村 孝広		
事務職員	細野 かおり		
教育相談員	福田 恭子	小寺 すずゑ	倉地 知子

令和3年度のセンター事業

揖斐郡教育研修センターの運営方針

令和3年度揖斐郡研修センターでは次の方針のもと各事業に取り組んでいきます。

- ◇新学習指導要領の全面実施を受けて教育改革が進行する中、「明るく開かれた研修センター」として、「教職員にとっての研修の場」とであるとともに、「必要とする教育情報を提供する場」となるよう、揖斐郡小中学校校長会と連携して揖斐郡教育機関の中核としての機能を果たすように努めます。
- ◇「ふるさと揖斐」を愛する郷土愛を養いつつ、一人一人の児童生徒の個性の伸長をめざして児童・生徒文化事業を展開します。
- ◇児童・生徒の健全な育成をめざし、健康安全や教育相談活動等の充実を図ると共に、図っていく。さらに揖斐郡内の方々にとって、気軽に利用できる学校教育・社会教育の窓口となるよう努めます。

この教育研修センターではこの運営方針のもと、今までのセンターの取組の上に立って、令和3年度、次の6つの事業を柱に更なる活動の充実を目指して取り組んでいきます。

令和3年度揖斐郡教育研修センター事業の6つの柱

- ① 揖斐郡の教育活動を充実させるための本務事業・事務局事業の充実や揖斐郡の教職員の資質や授業力を高める研修事業及びteamsを活用したオンライン研修及びオンライン会議を実施します。
- ② 児童・生徒のための文化事業（科学・社会科作品展、ふれあい作品展、図美展）と児童生徒の在籍する学校と連携した教育相談活動（ほほえみ教室等）に取り組みます。
- ③ 各校の教育実践に役立つ資料の収集と情報発信（授業ライブラリー、実践論文研修及び各学校の教育活動に役立つ積極的な資料提供（校長会での提案やメール等を通じて）を行います。
- ④ 揖斐郡の学校教育推進に活用できる研究調査（諸調査に基づく揖斐郡の具体的な教育実践や児童生徒の実態の分析や改善の方向の提示）に取り組みます。
- ⑤ 揖斐郡学校保健会、揖斐郡PTA連合会、揖斐郡体育協会に関わる諸事業に取り組みます。
- ⑥ 学校及び地域の方々に親しまれる教育研修センターづくりとセンターの取組や揖斐郡の教育活動の成果を知ってもらうための広報活動を充実させます。

具体的な揖斐郡教育研修センターに関わる事業（令和3年度）

（1）授業ライブラリー

- 郡内の研究授業の資料をファイル化し、共有財産として活用し、授業力の向上を図ります。R2年度分として提出していただいた指導案、及び過去の実践は研修センターのホームページに掲載中です。令和3年度も2期に分けて募集します。
- 授業ライブラリーが郡の教職員の授業力の向上につながるように、センター通信やホームページを通じて、収録情報を積極的に紹介していきます。

（2）教育研究実践論文

- 新しい授業過程や学習方法の工夫など積極的に取り組んでいただき、郡内教育の向上に資するように優れた実践や子どもたちの頑張りを郡内に広げていきます。
 - ・応募締切：11/22（月） 審査：一次審査11/30（火） 二次審査12/3（金）
 - ・表彰：特別功労賞、優秀賞、入選、佳作
- 岐大論文の要項に基づき、郡の論文も作成していただきます。
- 表彰および研究発表はWEBまたは映像配信で行い、各校の研修として位置付ける。

（3）揖斐郡教育研究総会

- 全教職員を集める「総会」は行わなわず、研究論文の表彰及び講評は、WEBまたは各校への映像データ配信で行います。
- 研究発表も、WEBまたは映像配信で行います。各校で必ず研修時間を設け、論文の表彰・講評、研究発表を各校で視聴するとともに、それをもとにした校内研修会を実施してください。

（4）夏期研修講座

- 集合型の研修ではなく、WEBや映像資料をもとにして各校で実施する分散型の研修で行います。
- 資料は7月上旬には配信しますので、各校で校内研修を位置付け、①「教育相談：コロナ禍における児童生徒の心」と②ICT活用についての研修をおこなってください。

(5) ①教育相談事業・・・揖斐郡教育研修センターでは次のように相談事業に取り組みます。

- 電話及び面接相談（随時）
- 各学校への訪問相談
- 主幹教諭との連絡会議（年3回 5月、10月、2月）
- 教育相談研修会（年2回 7/13, 12/21 に実施）
- 保護者会 年7回実施（5/28, 6/22, 9/21, 10/26, 11/19, 1/28, 2/18）

②適応指導教室

- ほほえみ教室開室：月、火、木、金（夏休み中は4日をめどに開室予定）
※児童生徒の在籍校と連携した支援を行い、個の実態に応じながら学校の教育活動に参加できるエネルギーを蓄える場としての役割を果たすことをめざしています。
- 指導者研修会：年間3～4回

③関連事業

- 不登校統計 毎月集計（教育委員会の協力）
- リーフレットの配布（5月）
- 各町の教育相談研修会への参加

(6) 編集・発刊事業

- 3町広報誌への掲載・・・年間3回 8、11、3月号に掲載予定
- 行事調整・・・3町の連携、西濃教育事務所との連携
- 研究冊子の発刊
 - ・教育実践論文集・・・応募者のうち 特別賞、優秀賞、入選の論文を集録
 - ・読書感想文集・・・特選作品及び入選作品から各部門2点を集録「25集」
 - ・いびの子のからだ・・・3月中旬配布予定「第68号」
 - ・教育情報「いび」・・・年間3回 5月、10月、2月に発行予定（第101号～第103号）
- 郡研修センター通信・・・随時発行し、郡内の先生方々にセンターの活動を知っていただくとともに、優れた実践や児童生徒の頑張りを発信していきます。
- ホームページの更新・・・センター通信と併行して更新に広く郡内の方々に揖斐郡の教育の取組と成果を紹介していきます。

(7) 教育研究員事業

令和3年度は派遣事業をもう1年中止し、令和4年度から再開します。

(8) 児童生徒文化事業（作品展等）

- 令和3年度は授業が例年通り実施されており、夏季休業日も例年通りの期間あるため、科学作品・社会課題追究・読書感想文、図美展、ふれあい作品展の児童の研究や作品作りの取組は例年通り実施し、県展への出品も行います。
- 9月に予定されていた「令和3年度 科学作品展・社会科課題追究作品展」は以下の理由により、従来の集合型の開催は中止します。
 - ・現状のコロナウィルス感染症の状況及び例年展示会場になっている会場がワクチン接種会場になること
 - ・ワクチンの接種をされる方と作品展の参観者との接触を避けることが難しいこと
 - ・参観者の数が不特定多数になり（令和元年度は1200人が参観）、展示会場の収容能力を考えた時に、人数制限をかけても密を防ぐのが難しく、感染リスクを0にすることが困難である。
- そのため次の方法で科学作品・社会科課題追究作品の審査会・展示会を実施します
 - ・各学校より科学作品展についても社会科作品展についても作品を厳選して提出していただき、提出された作品の中より審査を行い、県への出品作品を決定する審査会のみを行う。
 - ・審査会に出品できる数が限定され、集合型の作品展を実施できないため、学校ごとに校内作品展を行ったり、学校独自の表彰や作品展示を行ったりするなど、子どもたちが充実感をもったり、他の作品に学んだりできるよう各校ごとに工夫をお願いします。
 - ・県への出品作品による揖斐郡教育研修センターのホームページを活用したオンライン作品展を実施します。
 - ・センターでホームページ上に科学作品展及び 社会科課題追究作品展の部屋を作成し、揖斐郡内の小中学生及び保護者が閲覧できるようパスワードを掲載したオンライン作品展のポスターを各校へ送付し、郡内に児童の頑張りが伝わるようにしたいと考えています。

＜図工・美術展及び読書感想文審査会について＞

- ◇ 1月に行われる図工美術展については今後のコロナウィルス感染症の蔓延状況及びワクチン接種の状況に応じて検討します。現在と同じ状況が続く場合には、科学作品展や社会科作品展と同様の対応をします。図美展の実施の可否、及び実施方法については10月末頃までに決定し、各校に連絡しますが、審査会及びオンラインによる展示会は集合型の作品展が中止になる場合にも実施しますので、図美展の作品づくりを進めてください。
- ◇ 読書感想文の審査会は例年の通りに行い、本年度は読書感想文集も作成しますので、夏休みにかけての読書感想文集の取組をお願いします。

◇教職員夏期研修事業について

今年の研修は…

詳しい内容につきましては、後日、別紙にてお知らせします。

- 研修内容は、校長会の願いと教職員のニーズにより、開設講座及び内容を決定しました。
 - ・ 郡内の教員が一堂に会することをなくし、「オンラインWeb研修」で実施することとしました。
 - ・ 特定の研修日を定めず、各校の実情に合わせて研修ができるようにしました。

↓ その上で …

※ 「Web 動画」を視聴し、その後、各校ごとに意見交流等を行います。

※ 「司会進行」「会のもち方」等については、特に定めませんので、各校の実情により対応してください。

〈 研修講座 〉

○研修講座〈Ⅰ〉： 「コロナ禍における児童生徒の心」について

- ・ 主幹教諭から、「昨今の情勢」や「揖斐郡全体の傾向」「各校の現状と課題」をお話いただき、「イジメ問題」「不登校」「無気力、生活の乱れ」「家庭問題等」について考えます。
- ・ 専門的な立場から、個のもつ不安感の解消方法や心理面からの対応方法を学びます。
- ・ 学級の実態等からの意見交流を行います。対応方法の交流を行います。

○研修講座〈Ⅱ〉： 「夏休み明けから活かせる ICT」について

- ・ 二学期から、ICTを授業や校務に有効に活用できるスキルを身につけられるような、実践的な研修を行います。
- ・ 「授業でのタブレットの活用方法」「オンラインによる家庭学習」等、具体的な使用法について学びます。

〈 実施方法 〉

- ・ 各校毎に「研修講座」を視聴できるように、DVD又はHP等を用いて、動画を配信します。（配信方法につきましては検討中です。）
- ・ 「研修日」は特に定めませんので、各校のスケジュールに合わせ、研修講座Ⅰ、Ⅱについて2回の校内研修への位置づけをお願いします。実施に際しては、全職員が参加できる日を設定してください。
- ・ 研修実施後には、「研修内容」「研修方法」等に関わるアンケートを実施します。

「授業ライブラリー」の充実と活用にご協力をお願いします！



研修センターのホームページには、「授業ライブラリー」があります。このライブラリーには、毎年各学校で実施された研究授業(校内研、郡教研、町研 等)の指導案をデータ化して保存しており、郡内の教職員の皆様に自由に閲覧できるようにしてあります。

この事業は平成22年度から始まり、指導案を保存するだけでなく、揖斐郡の先生方の手によって磨かれた指導案を郡の共有財産として、先生方が自らの研修に役立てていただけることをねらいとしています。

さて、新しい学習指導要領の実施がはじまり、教科指導の見直しだけでなく、道徳や英語、プログラミング教育など、新しい取組も始まっています。そのような中で、毎日の授業を効果的に進めていくためには、先生方が協力して取り組んでいくことが求められます。

このライブラリーには、揖斐郡内の先生方が知恵を絞ってくださった授業のヒントが溢れています。このライブラリーを活用することで、郡内の先生方が児童生徒の実態に即した授業をより効率的に創り上げられると考えます。

現在保存されている指導案は、10年間で350点を超えています。今後、過去のデータの入れ替えを含め、一層の充実を図っていきたいと考えています。令和3年度も指導案を募集しますので、先生方のご理解とご協力をお願いします。

最近の不登校児童生徒の状況

揖斐郡教育会適応指導教室
ほほえみ教室

揖斐郡教育研修センターでは、不登校やいじめ等の児童生徒が直面している問題を、保護者・学校と連携しながら解決できるよう、教育相談・適応指導を行っています。

1 最近の状況と考察 郡内児童生徒数 5,328名（-139名）（R3.3.1現在）

（小学校19校 3,403名 中学校7校 1,925名）

	H28	H29	H30	R元	R2
郡内全児童生徒数	6,148	5,988	5,774	5,636	5,467
（増減）	(-191)	(-160)	(-214)	(-138)	(-169)
（小学校）	3,943	3,813	3,713	3,606	3,505
（中学校）	2,205	2,175	2,061	2,030	1,962
相談件数	179	186	150	153	92
（うち不登校相談）	153	150	113	125	78
※不登校児童生徒数	63	75	108	94	102
ほほえみ通室生数	6	5	6	7	9
（学校復帰）	5	1			3
（高校進学）	1	2	1		1
（就職）					
（教室継続）		2	4	6	4
（その他）			1	1	1

*不登校児童生徒数とは1ヶ月7日以上連続の欠席または授業の過半数を超える欠席者数～毎月の「不登校傾向の児童生徒の状況」の調査（R3年3月現在）から～

○年間欠席日数 30日～ 99日 50名（小学校16名、中学校34名）
100日～199日 52名（小学校6名、中学校46名）
200日～ 0名（小学校0名、中学校0名）
合計 102名（小学校22名、中学校80名）

最近の郡内の状況をみると、児童生徒数が年々減少しているにもかかわらず、不登校児童生徒数・相談件数ともに減少していない状況が続いています。特に中学生の不登校は、郡全体の8割近くを占めています。昨年は、新型コロナウイルスの影響で3ヶ月間の休校やそれに伴う生活の変化によってより多くのストレスを抱えたり、様々な制限から目的意識を失ったりして無気力・不安の状態に陥ってしまうことが多くあったようです。また、年度当初の休校の時期から親子関係のトラブルから児童生徒のみならず保護者からの訴えも例年になく多くありました。そのためそれを支える保護者へのカウンセリングなども必要不可欠であり、家庭・学校・ほほえみ教室のみならず、諸機関との連携を密にしながら家庭の安定を図っていくことが求められます。その一助として定期的に保護者会を開催していますが、お子さんの様子を交流したり、ここを卒業された保護者の方から今までの経験を通してのアドバイスをし合ったりされています。それによって安心されて帰られる保護者の方々も多くみえます。加えて昨年より主幹教諭の先生方にもご協力いただき、教育相談体制の充実に努めています。

不安や悩みを抱えた児童生徒・保護者が見えたら、学校からのお声かけをお願いします。

2 第1回ほほえみ教室教育相談研修会

日時 令和3年6月29日（火） 午後1時～3時
場所 揖斐郡教育研修センター 研修室
講師 井上 修一 氏（各務原病院 臨床心理士）
演題 未定



臨床心理士や大学の先生等専門家の講話を予定しています。「不登校傾向になった子どもに、よかれと思って支援しているがうまくいかない」と悩んでみえる学校の先生、ぜひご参加ください。